

NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 特定非営利活動法人めぐみ会

代表者名 理事長 高橋 佐吉

1. 事業名

熱海障がい者就労支援作業所復旧プロジェクト

2. 事業カテゴリー

3. 事業期間

2021年 10月 1日 ～ 2021年 12月 31日 (92日間)

4. 契約金額

1,000,000円

5. 担当者名

古畑 ひとみ

6. 事業目的

障がいのある人たちの就労支援施設を復旧させることで、利用者の土石流災害で受けた身体的・精神的負担を和らげ、一日も早く元の生活に戻れるようサポートを行う。

7. 事業の成果

2022年1月で土石流災害から6か月、立入制限が解かれ、臨時の作業場から元の作業所に戻って2か月が経過した。被災による建物への直接的被害は無かったものの、長期間稼働できなかったことにより、作業に必要なA3プリンターインク硬化による目詰まりや冷蔵庫が衛生的に使用不可になる等の不具合があった。また被災後に臨時作業所へ移動するまでの休業を余儀なくされた期間の作業報酬(運営費)が減少したことで資金不足となりマイナスからのスタートだったが、本事業を推進することで作業所内部をほぼ災害前と同等の設備まで復旧させることができた。そのため、現在では被災前と同じく、小中学校の冊子製本、段ボールの箱折やエコバッグ製作などの内職作業、印刷業務、縫製作業を行えるようになった。利用者にとっても、臨時の作業場では、作業スペースの確保が難しく手狭だったが、元の作業所に戻ったことにより効率よく作業ができるようになった。

災害直後は、作業所から離れた場所に避難したり、通院が困難なため入院するなどの理由で休んだ利用者もおり、現在も1名が休んでいるが、登録の利用者数17名は被災後に1人も減ることなく、現在まで継続して受入れができています。通常と異なる出来事があると活動への参加やモチベーションの維持が難しい利用者達もおり、スタッフも作業所を再開できるのかの不安が大きく、心のケアについては当初不安を感じていた。しかし、以前と同じ環境を早期に整備することで、心身ともに安定した活動を取り戻すことができた。また大変な状況と一緒に乗り越えたことで、以前より利用者スタッフの絆も深まり、互いに協力する体制

づくりができた。また憩いの場を整備したことで、利用者さん達が休憩時間集える場として利用でき、身体的・精神的負担の軽減につながった。

元の作業所を離れた事で地域住民との交流が一時しづらい状況にもなっていたが、本事業中に地域貢献として清掃を行ったことにより、地域住民の方々のお役にたてた。被災の影響で立ち入ることができない場所があるため、被災前に業務として受託していた清掃作業の依頼が現在も減ったままなど収入減による運営費の厳しさはいまだある。しかし運営費を確保するために実施したクラウドファンディングは目標額 150 万円を達成できたほか、直接のご支援や他団体との連携を通じた寄付などの支援もいただくことができた。今後の活動の幅を広げることによりよって、さらなる運営費の確保にも繋げることができたと考えている。

8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

(1) コンポーネント①

・軽自動車（ホンダ N-BOX 中古車）

安全かつ快適な乗り心地で利用者の送迎ができるようになった。コロナ禍で車内が密にならないよう分散する必要性があったため、作業所外での活動や食事会などに参加できる利用者人数の制限をしていたが、全員参加が可能となった。こうしたお楽しみ企画があることで、利用者のストレス発散やモチベーション向上にも繋がっている。またこれまではイベントの参加数が人数や車の調整のために限られることもあったが、今後は利用者とは行政や地域行事、福祉祭りなど利用者の製作物を販売するイベントにも多く参加可能となる。通常の活動時にも、内職完成品の納品に活用できている。現在はコロナ禍でイベント自体が少ないが今後、売上げが上がることで、利用者自身の工賃アップにも繋げることができる。

・A3 プリンター

利用者が作成している広報誌（めぐみ通信）の印刷作業効率がアップした。

小ロット作業では、大型印刷機を使わずに印刷が出来ることでコスト削減にも繋がった。

・冷蔵庫

衛生的に利用者さんのお弁当や飲み物の保管ができるようになり、利用者と職員の労働環境の向上に繋がった。

・家賃補助

災害に伴う休業で収入減となり、また復旧にあたって備品購入や職員の労働時間も増える中で、経費の負担が軽減された。元の作業所を継続して維持できた。

・清掃用具

作業所内と周辺の定期清掃及び地域貢献としての清掃作業（伊豆山岸谷共同墓地・御岳神社）を行うことができた。もともと高齢者が多く、さらに被災で自宅を離れた住民も多いために個々の住民での清掃が難しく、町内会から墓地などの清掃を依頼された。当初は有償での依頼であったが、被災時やその後のクラウドファンディング、寄付などでは地域にお世話になっていたことから恩返しの意味をこめ、また今後の継続的な作業依頼に繋がることを期待して、無償で実施した。また、地域外の方にも伊豆山で元気に活動していることの報告になればと考え、メディアなどにも連絡し、活動広報の機会ともなった。

(2) コンポーネント②

・ガーデンテーブルセット&パラソル

利用者さん達の憩いのスペースとして、休憩時間にお茶を飲みながら集える場所となった。屋外に設置しているため、コロナ禍でも利用できている。カフェスペース周辺に災害後、灯りが少なくなったこともあり地域の方々の癒しの灯りとなればと小規模ながらソーラーイルミネーションを設置し報道にも取り上げられた。今後は、活動を知っていただくためにも地域の方々と気軽に集える場として活用して

いきたいと考え、憩いのスペースを広げる整備を行っていく。

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

コロナ禍で、発注したものが納品されるまでに1か月以上かかった。備品や設備復旧は想定より時間がかかるものだと改めて感じた。やはり作業所を復旧することで活動ができ、利用者の普段の生活でも気持ちの安定にもつながったため、いかに早期に元の環境に戻すことができるかが重要、という学びとなった。また通いなれた作業所でいつものスタッフや利用者と一緒に作業ができる環境を維持することで、災害という非常時にも作業所外での利用者の生活をも支えることに繋がると本事業を通してスタッフ間でも感じた。

カフェスペース整備に関して他作業との兼ね合いで、利用者さん達のいる時間に作業が行えない、日も短い時期で作業できる時間がとれず、当初予定していたタイルやセメントを購入して敷地を整備することは事業内容から外した。今後もう少し暖かくなり、外での作業がしやすい時期になってから利用者と一緒に整備を行っていく。

今までは地域や外部に作業所の活動を情報発信する機会は多くなかったが、本事業を SNS や HP に発信することにより、多くの方に「めぐみ会」の現状を知ってもらえることが出来た。困っていることを困っているとは発信したことで、多くの支援を受けることに繋がった。

10. 協力体制の構築

熱海未来創造部（被災情報共有や支援者への繋ぎ）、伊豆山岸谷墓地組合（清掃依頼）

11. Civic Force との協働について

ミーティングを重ね当作業所に何が必要なのか、寄り添う形で事業概要書作成から事業報告書の助言も頂き活動に集中できた。利用者共々感謝申し上げたい。